

花に飾られ 感激の対面実現

よ公ハチ よ来た人が主人ご



幅りを待ち続け、美談のスタート

渋谷のシンボルとして親しまれている忠八チ公の慰霊祭が八日、像を囲んで開かれた。銅像建立五十年目に当たることあり、ハチ公のご主人だった東大農学部農業工学科生みの親、故・上野英三郎博士の胸像と像同士のご対面がなすなど盛りだくさんの行事が催され、駅前を埋めた若者や家族連れから温かい拍手が送られた。

この日、ハチ公の像はきれいに磨き上げられ、春の日につやつやと光っていた。午後一時から始まった慰霊祭ではハチ公銅像維持会の並木貞人会長や同名誉会長の長谷川忠道園鉄談谷部長、駆けつけてきたハチ公の生まれ故郷、秋田県大館市の岸山健徳市市長らがハチ公をたたえるあいさつ。同駅のアナウンス嬢がハチ公の首に花輪を飾った。

対面したハチ公と顔いまたった上野英三郎博士胸像 日談谷駅前で8日午後1時50分

この後、上野博士の像との対面式。同学科の学生たちが大学から運んできた胸像をハチ公の像の前に置き、覆っていた白い布を外す。正面を見せた博士の視線がちょうどハチ公に注がれ、感激の対面となった。

ハチ公は大正十二年十一月に大館市に生まれ、上野博士にもらわれた。尾を左に巻いた秋田犬のオス。上野博士を同駅まで送迎するのが日談谷だ。同博士は大正十四年五月二十一日、大学内で急逝。ハチ公はそれを知らぬまま、十年近く駅頭で博士の



花まつり 甘茶

しになり、昭和九年四月、尊金で像が建てられた。
関係者は「金や物が優先する昨々、愛する心、いたわる心をハチ公から教えられる気がします。学生たちはやさしい心のハチ公像を見て、少しでも世界の飢えた人たちのことを考えざるをえなかった」と、農学部生らしく訴えていた。

- 春祭 高校野球 大会 第1日 (8日・神宮第一球場ほか)
- ▽四回戦
- 付 二松学舎大 4-1 3 山学院久我
- 都 立川 2-1 1 日大葛丘
- 日 大 1-4 3 明大中野
- 日 大 3-5 1 日大豊山